

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-34598

(43) 公開日 平成11年(1999) 2月9日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

B 4 4 C 3/00

B 4 4 C 3/00

F

A 6 3 H 3/00

A 6 3 H 3/00

Z

3/52

3/52

A

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平9-186839

(22) 出願日

平成9年(1997) 7月11日

(71) 出願人 597099128

有限会社 アニバーサリー

愛知県春日井市篠木町 6 丁目1649番地 1

(72) 発明者 波多野 寛昭

愛知県春日井市篠木町 6 丁目1649番地 1

有限会社アニバーサリー内

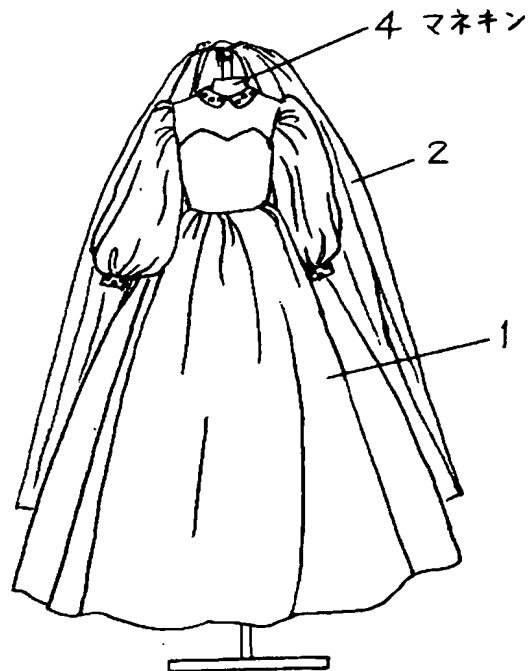
(74) 代理人 弁理士 竹中 一宜

(54) 【発明の名称】 本人が着用したウェディングドレスのミニチュアウェディングドレス及びこのミニチュアウェディングドレスの作製方法

(57) 【要約】

【課題】 従来、結婚式の際に着用したウェディングドレスを記念に残すためには、カメラ又はビデオカメラ等により撮影する。しかし、これらは平面的な形でしか残らないので、当日にウェディングドレスを身につけていた時の自分の心境を忠実に回想することができない。

【解決手段】 結婚式において撮影されたウェディングドレスAの表裏の写真D等をもとに、ウェディングドレス及び付属品Bをそのままの形で縮小し、ミニチュアウェディングドレス1とする。この作製工程において、製作者は、本人の希望、寸法等を考慮に入れた上で作製し、更に出来上がったミニチュアウェディングドレスを本人に確認及び検討してもらった上で、ミニチュアウェディングドレスが完成する。従って、本人の着用したウェディングドレスの形状、質感、雰囲気等を忠実に再現できる。生涯の記念として残すことができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 結婚式、披露宴、模擬結婚式等において本人が着用したウェディングドレスの形状を写真、VTR、描写等の記憶手段で特定し、この記憶手段により特定したウェディングドレスの表裏の形状を決定し、この決定した形状を利用して作製されるミニチュアウェディングドレスであって、

このミニチュアウェディングドレスは、結婚式、披露宴、模擬結婚式等において本人が実際に着用したウェディングドレスの寸法、付属品等をそのままの形で縮小するとともに、記念品又は置物として利用されることを特徴とする本人が着用したウェディングドレスのミニチュアウェディングドレス。

【請求項 2】 結婚式、披露宴、模擬結婚式等において本人が着用したウェディングドレスの形状及び質感を写真、VTR、描写等の記憶手段で特定し、この記憶手段により特定したウェディングドレスの表裏の形状及び質感を決定し、この決定した形状及び質感を利用して作製されるミニチュアウェディングドレスであって、

このミニチュアウェディングドレスは、結婚式、披露宴、模擬結婚式等において本人が実際に着用したウェディングドレスの寸法、質感、付属品等をそのままの形で縮小するとともに、記念品又は置物として利用されることを特徴とする本人が着用したウェディングドレスのミニチュアウェディングドレス。

【請求項 3】 結婚式、披露宴、模擬結婚式等においてウェディングドレスを着用した本人を、正面及び背面から写真、VTR、描写等の記憶手段で形状及び質感を特定する行程と、

ミニチュアウェディングドレスの製作者が前記記憶手段より確認した本人の希望又は寸法及び質感を、再検討し前記形状及び質感を検討する行程と、

前記希望又は寸法及び質感に基づいて製作者がミニチュアウェディングドレスを作製する行程と、

でき上がったミニチュアウェディングドレスが希望通りのものであるか否かを本人が確認する行程と、

でなるミニチュアウェディングドレスの作製方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、結婚式、披露宴（主として、結婚披露宴）、模擬結婚式等（以下、結婚式とする。）において新婦本人（本人とする。）が着用したウェディングドレスを、生涯の記念品又は他の用途としての利用を考慮したミニチュアウェディングドレス及びこのミニチュアウェディングドレスの作製方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、結婚式の際に着用したウェディングドレスを記念に残すための手段としては、カメラ又はビデオカメラ、描写等（以下、写真、VTR等とする。）の記憶手段により残すのが一般的である。しか

2

し、このような記憶手段による写真、VTR等は平面的な形でしか残らず、そのウェディングドレスの実物を、例えば手にとって触るなどということはできない。即ち、実際に本人が着用したウェディングドレスが立体的な形として残らないので、当日にウェディングドレスを身につけていた時の自分の心境を、本人又は近親者等（以下、本人等とする。）は忠実に回想することができないことが指摘されている。

【0003】この本人等の忠実な回想の一環として役立つ先行技術文献としては、次のような発明が挙げられる。(1)特開昭61-154591号の結婚式等の晴姿を記念する人形体がある。この発明は、結婚式の際の新郎・新婦の正装した姿をそれぞれ写真撮影し、その写真を基に人形を作製する方法である。(2)特開平1-129870号の注文人形の製造方法がある。この発明は、製作依頼者のイメージに合う人形を、パーソナルコンピュータのシミュレーションシステムを利用して製作する方法である。(3)特開平4-214401号のミニ着物の作製方法がある。この発明は、実物の着物のカラー写真を引き延ばしてカラーコピーし、このカラーコピーした転写紙を裁断してつなぎ合わせ、布にホットプレスしてミニ着物飾りを作製する方法である。(4)特開平5-345077号の人形の製法がある。この発明は、カラーの人物写真をカラーコピーし、人形の顔部分に熱転写することにより、写真で撮った顔と同じ顔をもつ人形を作製する方法である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記の各先行文献は、何れも着物やドレスのミニチュア、又はある人物と同じ顔を持った人形等を製作する方法であって、本発明とミニチュアの品物を作成することにおいて、若干類似する点がみられる。そして、(1)の発明は、晴姿をミニチュア人形体とし、記念品としての利用価値がある。(2)の発明ではパーソナルコンピュータのシミュレーションシステム、(3)、(4)の発明ではカラーコピー又は熱転写等の手段を用いることによりイメージに合った正確な人形又は着物を製作することができる。

【0005】しかし、次のような課題がある。即ち、

(1)の発明は人形体の製作方法であって、明細書を読む限り人形の衣装の生地に関しては具体的な記載がない。従って、衣装も人形と一体的に形成されるという印象が強く、例えば人形がビニール製であれば、衣装も同じくビニール製である。これでは、当日の衣装そっくりに再現するのはできない課題がある。(2)、(3)、(4)の発明は、このような機械的な製法では、人間の手作りによる味わい、情緒が感じられず、一生の記念品として残しておくものにするには心がこもっていない。また裁断者、縫製者等の専門家（以下、製作者とする。）が腕や専門技術を発揮できないこと、又は本人の感覚、感情を自由に表現できないこと、等の課題がある。

【0006】

3

【課題を解決するための手段】本発明は、結婚式において、本人が着用したウェディングドレスを記念用のミニチュアウェディングドレスとすることにより、結婚式当日の心境等を回想するのに役立つこと、また生涯の記念品として残すことができること、更には記憶の惹起に役立つこと、等を目的として、下記の構成を採用する。

【0007】請求項1の発明は、結婚式において本人が着用したウェディングドレスの形状を写真、VTR、描写等の記憶手段で特定し、この記憶手段により特定したウェディングドレスの表裏の形状を決定し、この決定した形状を利用して作製されるミニチュアウェディングドレスであって、このミニチュアウェディングドレスは、結婚式において本人が実際に着用したウェディングドレスの寸法、付属品等をそのままの形で縮小するとともに、記念品又は置物として利用されることを特徴とする本人が着用したウェディングドレスのミニチュアウェディングドレスである。

【0008】本発明は、更に前記の効果を発揮するために、ウェディングドレスの質感をも発揮できることを目的として、下記の構成を採用する。

【0009】請求項2の発明は、結婚式において本人が着用したウェディングドレスの形状及び質感を写真、VTR、描写等の記憶手段で特定し、この記憶手段により特定したウェディングドレスの表裏の形状及び質感を決定し、この決定した形状及び質感を利用して作製されるミニチュアウェディングドレスであって、このミニチュアウェディングドレスは、結婚式において本人が実際に着用したウェディングドレスの寸法、質感、付属品等をそのままの形で縮小するとともに、記念品又は置物として利用されることを特徴とする本人が着用したウェディングドレスのミニチュアウェディングドレスである。

【0010】また本発明では、人的手段により、ミニチュアウェディングドレスの製作者が腕を振るい心を込めて製作できること、本人の感覚、感情を自由に表現できること、本人にとって十分満足できるミニチュアウェディングドレスが作製されること、等を目的として、下記の構成を採用する。

【0011】請求項3の発明は、結婚式においてウェディングドレスを着用した本人を、正面及び背面から写真、VTR、描写等の記憶手段で形状及び質感を特定する行程と、ミニチュアウェディングドレスの製作者が前記記憶手段より確認した本人の希望又は寸法及び質感を、再検討し前記形状及び質感を検討する行程と、前記希望又は寸法及び質感に基づいて製作者がミニチュアウェディングドレスを作製する行程と、でき上がったミニチュアウェディングドレスが希望通りのものであるか否かを本人が確認する行程と、でなるミニチュアウェディングドレスの作製方法である。

【0012】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態の一例を

4

説明する。

【0013】本発明は、結婚式において、本人が着用したウェディングドレスを記念用のミニチュアウェディングドレスとする方法である。従って、本人の着用したドレスの寸法にできる限り合わせたミニチュアウェディングドレスとすること、またブーケ、その他の付属品も忠実に再現することにより、ウェディングドレスの形状、質感、雰囲気等を確実に再現できる。これにより、生涯の記念として残すことができるとともに、当日の模様、或いは自分の心境等を回想するのに役立つ（例えば、万が一、本人又はその他の関係者に障害があった場合、記憶の呼び戻し等に役立てることも可能である。）。

【0014】出来上がったミニチュアウェディングドレスを人形、マネキンに着用させることにより、記念品又は置物として利用できる。

【0015】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面を参照として説明する。

【0016】本発明のミニチュアウェディングドレス1は、図1のフローチャート図で示される手順で作製される。まず、結婚式においてウェディングドレスAを着用した新婦Cを写真、VTRで撮影するか、或いは描写する等の記憶手段により、ウェディングドレスAの形状及び質感が分かるように残す。尚、この撮影・描写の際には、ウェディングドレスAの少なくとも正面A1及び背面A2の両方から撮影・描写するとよい（図3、4参照）。この正面A1及び背面A2の形状及び／又は質感を確定することにより、確実に結婚式において着用したウェディングドレスAのミニチュアウェディングドレスが再現できる。図中Bはブーケ、リボン等の付属品を示す。

【0017】このようにしてでき上がった写真等（以下、代表して写真Dで説明する。）を、ミニチュアウェディングドレス1の製作者が確認し、打合せを行う。また、新婦C本人の希望又は寸法及び質感等も、この時点で併せて検討される。

【0018】続いて、各製作者によってミニチュアウェディングドレス1の製造行程に取りかかるが、まず、前記写真Dに示されたウェディングドレスAの生地及び付属品2を特定し、これらの素材を調達する。

【0019】次に、デザイナー、裁断者、縫製者等の手により実際にミニチュアウェディングドレス1の作製が始まるが、これらの各行程は、通常のオーダーメイドの衣服の製作方法とほぼ同様である。

【0020】以上のような手順でミニチュアウェディングドレス1が完成したならば、出来上がったミニチュアウェディングドレス1を新婦C本人に確認してもらい、新婦C本人の希望通りの仕上がりであれば、すべての作業が完了する。但し、納得のできるものでなかった場合は、再度打合せの段階まで戻る。

【0021】尚、完成したミニチュアウェディングドレス1は、例えば、図5、6のように人形3、或いは図7、8のようにマネキン4等に着用させれば、記念品、置物等として利用される。

【0022】

【発明の効果】本発明の請求項1・2は、結婚式において、本人が着用したウェディングドレスを、生涯の記念品として残すためのミニチュアウェディングドレスである。従って、本人の着用したウェディングドレスの寸法及び／又は質感にほぼ合致するミニチュアウェディングドレスとする構成である。従って、ウェディングドレスの形状、質感、雰囲気等を忠実に再現できること、また生涯の記念品として残すことができるとともに、当日の模様、或いは自分の心境等を回想するのに役立つこと、又は記憶の惹起に役立つこと、等の特徴がある。

【0023】更に本発明の請求項3は、人的手段により、製作者が腕を振るい心を込めて製作できることを特徴とするミニチュアウェディングドレスの作製方法である。従って、製作者である裁断者、縫製者等の専門家が、その専門知識を発揮できる。また本人の希望を十分にアピールできるとともに、本人の感覚、感情を自由に表現できること、本人にとって十分満足できるミニチュアウェディングドレスが作製されること、等の効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】ミニチュアウェディングドレスの製造過程を示すフローチャート図である。

【図2】ウェディングドレスを着用した本人を示す図である。

【図3】ウェディングドレスを着用した新婦を正面から撮影した写真を示す図である。

【図4】ウェディングドレスを着用した新婦を背面から撮影した写真を示す図である。

【図5】ミニチュアウェディングドレスを人形に着用させた状態の正面図である。

【図6】図5の背面図である。

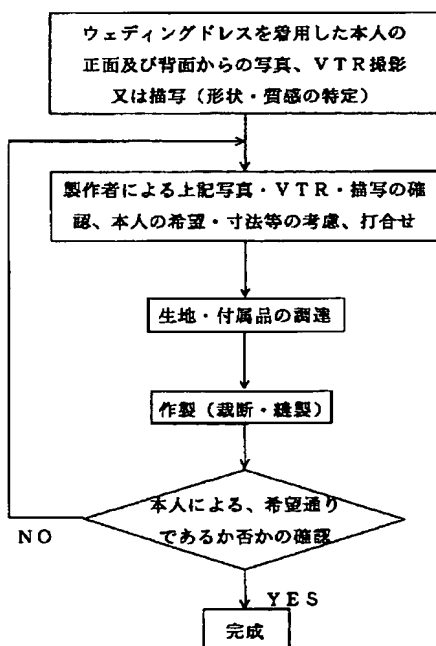
【図7】ミニチュアウェディングドレスをマネキンに着用させた状態の正面図である。

【図8】図7の背面図である。

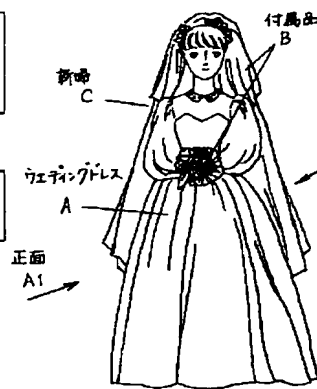
【符号の説明】

- 1 ミニチュアウェディングドレス
- 2 付属品
- 3 人形
- 4 マネキン
- 10 A ウェディングドレス
- A 1 正面
- A 2 背面
- B 付属品
- C 新婦
- D 写真

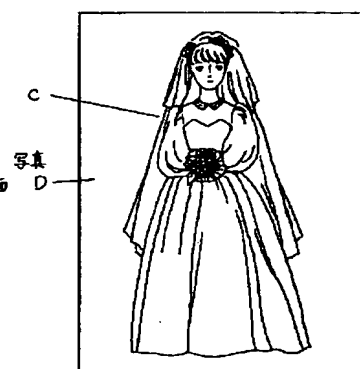
【図1】



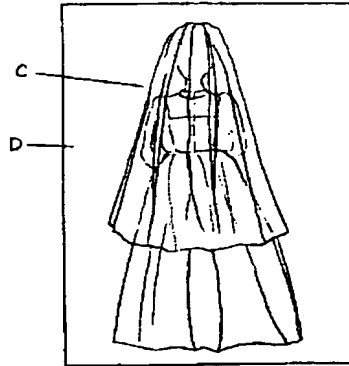
【図2】



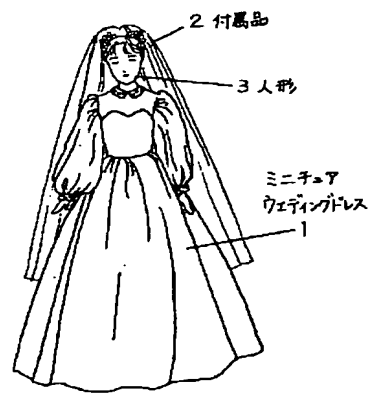
【図3】



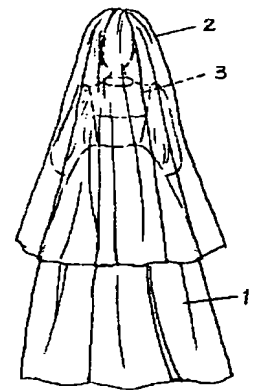
【図 4】



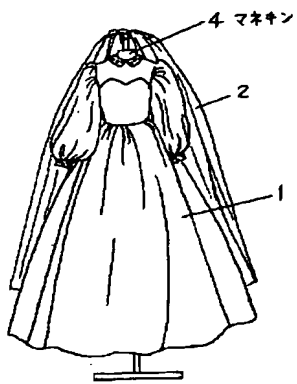
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

